

DINO DE LAURENTIIS
PRESENTS
**CHARLES
BRONSON**
IN A MICHAEL WINNER FILM
**"DEATH
WISH"**



私立警察か
夜の私刑者か
妻の面影、娘の涙を
心に抱いて
さすらいの狼が
仕掛けた闇の罠！

チャールズ・ブロンソン
ビンセント・カーデイニア／ウィリアム・レッドフィールド
ホープ・ラング



〈カラー作品〉

狼は心ざし

コロムビア映画



監督〈スコルピオ〉の
マイケル・ウィナー
製作総指揮〈シンジケート〉の
ディノ・デ・ラウレンティス
(原作邦訳)早川書房刊
(サントラ盤)CBS・ソニー

この映画の音楽を担当した
ハービー・ハンコックのこと

マイルス・デイビスのグループに
ピアニストとして入り注目されたの
が63年、『ウォーターゲートマン』
の大ヒットの後、66年にアントニオ
ニーの『欲望』で初めて映画音楽を
手がけて成功。翌67年にマイルスと
別れ自分のグループを結成した。

74年『ヘッドハンターズ』が全
世界でヒット、不動の地位を築き、
今日、クラシック・ファンタジー・ミュー
ジックの覇者として君臨している。

"DEATH WISH"

＜カラー作品＞コロムビア映画



狼よ心ば

作品にも恵まれ、人気も抜群、意欲的、精力的に映画に取り組み、ダイナミックな活躍をしているチャールズ・ブロンソン。「スコルピオ」のマイケル・ウィナー監督、「シンジケート」のプロデューサー、ディノ・デ・ラウレンティスとのチームで製作された最新作『狼よ心ば』は、今アメリカで大ヒットをしている。

▼お話し

舞台は、犯罪の温床といわれるニューヨーク。ブロンソンは建築会社の幹部ビジネスマン、幸せな家庭におとずれた突然の不幸——妻と娘が三人組の暴漢に襲われ、妻は惨殺され、一人娘は犯されたシヨックから精神病院へ……

この事件の直後、友人から贈られた拳銃をふとところに彼の夜の行動が開始された。標的は不特定の犯罪者たち。最初は嘔吐した彼だが、なれるにつれ正義感が充ちて行くのをおぼえた。そして自らをオトリに罠をかけるのだった。

市民は、この一匹狼の殺人行為を、「私立警察」と呼び歓迎し、警察もまたこれを黙殺したか……

▼この迫力

この映画のファーストシーン。部屋に闖入し、殺人と強姦を働く凶悪犯の暴力シーンの凄じさ。地下鉄や人気のない街路での強迫暴行シーン。そして、その犯罪者たちを処刑して行く、「狼」の殺人行動。

それらがニューヨークの実景の中でくりひろげられるのだから、その迫真性は圧倒的。一人住いの女性が連続的に襲われたり、爆弾事件が相いついだりの日本。フィクション以上の迫力を感じずにはいられない。

▼映画評論家の声——増淵 健氏

——前略——

この作品がユニークなのは、「復しゅうとしての無差別殺人」を描いたことではなく、ポール（チャールズ・ブロンソン）がどんな形でも裁かれないラストを設定したことである。それも、彼に共感した警部が、証拠品のピストルを川に捨て、事件をもみ消すのだから徹底している。つまりポールの殺人は正当であり、必要悪以上のものという発想なのだ。

——中略——

ポールは警察という名の権力を信しない男であり、自からの手で裁きを下すことに使命を抱いている。この考え方は、アメリカ人が国づくりの過程で体得したもので、いわば「自警の論理」ともいうべきだろう。

——中略——

「狼よ心ば」は、もっとも今日的な意味でのアメリカ映画なのだ。

【共同通信・芸能放送特信G版より抜粋】

★次回ロードショー

池袋駅東口 池袋劇場 (971) 8361